

2021年(令和3年)

3月8日  
月曜日 夕刊

囲碁・将棋	4
円・株	4
NEWS+α	5
社会・総合	6
社会	7
TV・ラジオ	4.8

朝日新聞大阪本社  
〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18  
電話 06-6231-0131 www.asahi.com



人工呼吸器をつけた新型コロナウイルス感染症の重症患者の中には、いったんは回復した後、症状が悪化し、再び人工呼吸器をつけなければならなくなる患者がいる。大阪大病院のグループは、どういうケースが悪化しやすいのか、予測する方法はないか調べている。

重症の新型コロナウイルス患者が入院する大阪大医学部付属病院で、診療にあたる麻酔・集中治療医学と呼吸器・免疫内科学のグループは、人工呼吸器をつけた患者の血液を調べた。

通常は、集中治療室で人工呼吸器をつけた患者が回復すると、呼吸数、血圧などを調べ、基準を満たした時に人工呼吸器をはずす。その後、再び人工呼吸器をつけた患者も調べた。

61〜74歳の17人中、4人が悪化して再び人工呼吸器をつけ

## コロナで再び人工呼吸器 なぜ **ぶらっと** ラボ

た。悪化しなかった人に比べて、血液中のリンパ球の数が少ない特徴があった。

9人についてはウイルスに対する「抗体」がどれだけできているかも調べたところ、リンパ球が少なく、ウイルスに対する



論文について議論する大阪大医学系研究科呼吸器・免疫内科学教室のメンバー＝白山敬之助教提供

抗体の量も少ない人が、再び症状が悪化するリスクがあると示された。リンパ球や抗体の量が、再び悪化するか予測する指標になる可能性がある。

抗体の中でもとくにウイルスの侵入を防ぐとされる抗体が十分できることが、病状の安定に重要なことも示された。白山敬之助教は「調べた数が少ないので仮説の段階ですが、今後の重症患者の治療戦略に役立てたい」と話す。この結果は英専門誌に発表した。

診療と研究を同時に進めることは、大病院の使命だ。白山さんによると、入院患者が増えてきた昨年3月は、ウイルスの性質もまだよくわからず、治療法も手探りで緊張を強いられた。経験をつみ、治療法は少しずつ確立し、感染対策にも慣れてきた。今は、ワクチンが使えるようになる希望もみえてきたという。

(瀬川茂子)